

編 集 後 記

医学的リハビリテーションは決して慢性期のみを対象とするのではなく、急性期より始められてこそ効果が大になる。チームワークのメンバーの中でナースが一番長い時間帯を患者と接するという事でトータルリハビリテーションで大きい影響力を持っているという事は、ナースの優劣が患者のリハビリテーションの予後を決める事もあり得ると考えてもよい。そのナースの現実と問題点について色の角度より検討を加えたのが今月の特集となっている。

チームワークについての座談会では各体系の違った病院、施設での他職種とのかかわり方が問題としてあげられているが、基本的にはナースがわが国の病院では色々なしわ寄せを受けている職種である事は間違いないし、それをカバーするのに職業附添いが多いとリハビリテーションのプロセスではマイナスに働く因子となる可能性が大きい感じを受ける。

看護教育に関する論文では、かなり看護教育の面でリハビリテーションの重要性が認識

されて来ている感はあるが、全部の教育で必修とまでは至っていないようである。単発的な講義よりも関連づけた実習を主体にした方がより効果的であろう。「リハ病棟におけるナースの役割り」、「リハに必要な看護機器」「訪問看護」など参考になる点が多い。リハビリテーションは地域性による特色が出るのは当然であるし、医療体系は地域と密着した形で発展して行く事が望ましい。最近盛んにコミュニティケアという言葉が使われるが、これはリハビリテーションの基本的な考え方でもある。その場合、巻頭言にもあるように諸外国では上手にボランティア活動を組み入れているが、わが国ではこのようなサービスの組織化に不慣れなのか仲々好意の活用が十分でない。

各々の地域で行っておられる活動や問題点、訪問看護の実際などについて御投稿戴けると大変ありがたい限りである。諸兄姉の御健康と御活躍を編集委員一同御祈りする次第である。

(荻島 秀男)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 罔 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次 号 予 告 (第 5 卷 第 4 号)

特 集 二分脊椎のリハビリテーション

二分脊椎の成因……………京都大 谷 村 孝

二分脊椎のリハビリテーション(新生児期の取扱いと

乳幼児期のリハ・プログラム)……………こども医療センター 陣 内 一 保・他

二分脊椎の泌尿器科的問題……………星ヶ丘厚生年金病院 中 新 井 邦 夫

二分脊椎の教育・社会問題……………村上整形外科 村 上 白 士

講 座 歩行分析(4)(床反力分析を中心として)……………東北労災 盛 合 徳 夫